

手賀沼における侵略的外来水生植物の大規模駆除後の再繁茂状況

小倉久子¹⁾、竹内順子¹⁾、八鍬雅子¹⁾、林紀男²⁾

1)美しい手賀沼を愛する市民の連合会、2)千葉県立中央博物館

千葉県北西部に位置する手賀沼では、特定外来生物であるナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイが異常繁茂を続けている。千葉県環境生活部水質保全課では手賀沼の生態系を劣化させないために、令和2年度（2020年度）から水草刈取り機械を使ったナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ大規模駆除を始めている。筆者らは機械駆除のあとの再繁茂状況について、定点観察を行った。

*水草刈取船ハイドロモグ（ノダック（株）製）による機械駆除：2021年1月～2月

再繁茂状況確認調査：2021年2/20（作業完了から8日後）、4/3（50日後）、6/21（129日後）、
7/19（157日後）

*人力による駆除エリアの再駆除：2021年7月20日～30日（定点は7月22日に再駆除を実施）

再繁茂状況確認調査：7/25（3日後）、8/30（39日後）、10/25（95日後）、11/29（130日後）、
12/21（152日後）、2022年1/24（186日後）

これら10回の定点観察から次の知見が得られた。

- ・駆除の直後から、茎断片等の漂着が始まっていた。周辺の駆除作業中に拡散した茎断片が再漂着していることもうかがわれた。
- ・再駆除後の再繁茂量は、本格駆除後と比較して少なかった。駆除直前の繁茂量が減少していることのか、駆除時の拡散防止対策がより徹底されてきたこと、対岸の大群落を駆除することで漂着の供給が減少、などの効果と考えられた。
- ・ナガエ・オオバナの生長速度は季節によって異なり、また、風向の季節的傾向が茎断片や群落の漂着に大きく影響するため、大規模駆除の実施にあたっては季節の配慮が必要であると考えられた。
- ・機械駆除後に継続的な再駆除を行うことは、ナガエ・オオバナの低密度管理において、非常に重要であることが確認された。

※小倉久子・竹内順子・八鍬雅子・林紀男. 2022. 手賀沼における侵略的外来水生植物の大規模駆除後の再繁茂状況. 千葉生物誌. 72(1): 44. より引用転載